

あれから10年～ 3.11 鎮魂の願い



本校も「みやぎ鎮魂の日」に、放送による集会を持ちました。校長からの講話と生徒会長菊池真優花さん(2年)から「鎮魂の願い」を述べ、その後、海の方を向き、皆で黙祷をしました。

◆**防災主任** 羽生宏義教諭(抜粹) 東日本大震災からもう10年。まだ10年。いずれにしても、あの日のことをいろいろ思い出します。皆さんはどのような経験をしたのでしょうか？◆癒えない苦しさがある人は、無理に思い出す必要はないと思います。しかし、自然災害は震災の前も、これからも、私達に降りかかって来ます。3000kmほどの日本の国土で、世界の地震の1割が起きています。宮城県周辺地域では、大地震の発生が30年周期とされ、すでに10年を経過したことになります。◆地震は恐ろしい現象です。地鳴りがただで私



心がすくみます。2月の地震は、警告に思えました。皆さんのご家庭では、震災の教訓が生きましたか？近年、震災遺構の公開が続いています。亙理町の中浜小学校は、様々な配慮をしてあったことで校舎が大勢の命を救いました。機会があれば、訪れてください。多くのことに気付かされます。そして、新型感染症の拡大は、次の自然災害が発生した時にどのような課題を私達に突きつけるのでしょうか。◆まだ10年、もう10年です。様々な自然災害を、しなやかに乗り越える知恵をみんなで見いだしていきましょう。

「あの日」校長 町田尚彦 あの日、仙台高校は授業がなく、多くの部活動は屋に終わり、残っていた幾つかの部の生徒は帰り支度をしていました。大きく長い揺れでした。これはただ事では済まないと感じました。体育館の2階通路、ガタガタと大きな揺れ、「もしガラスが割れたら」、頭からジャンパーを被って走る生徒。楽器を抱えて4階大講義室から集まった生徒。◇津波警報が出ました。家まで15km程度の生徒は、陽のあるうちに学校を出て、歩いて帰ることにしました。4、5時間の夜道、どんな思いで歩いたことでしょうか。もっと遠い生徒は先生方の車に分乗し送りました。当時、高校2年の大内翼先生も名取の山沿いの自宅に向けて分乗した車に乗って学校を出ました。もし、家族が学校に探しに来た時のため、生徒たちはホワイトボードにメッセージを書き、正面玄関に置きました。数十人の生徒たちの文字。「心配しないで。だいじょうぶだから」。短いけれど気遣うことばでいっぱいになりました。◇沿岸に住む2人の生徒は私の家に泊まりました。家族と連絡がつかず、ラジオから悲惨な状況が流れる中、石油ストーブで調理したうどんを5人前食べました。うどんをただ啜る音が不安を消す気がしました。◇3月4日、仙高生はよく働きました。それぞれの地域に出て水を汲んだり、物資を分配したりと、優しく行動力のある生徒を誇りに思いました。◇3人の講師の先生は、4月から正教員として気仙沼高、本吉響高、女川高に赴任が決まっていました。住まいが定まらないままでしたが、新任としての使命を胸に、希望の眼差しで出発しました。◇「宮城のためになりたい」と遠くから戻った卒業生も多くいました。佐藤達哉先生は静岡の会社を辞め、夏から市内中学校の講師として、荒れた生徒の心に寄り添ってくれました。◇どんなときにも前向きな青年たちを見て、だいじょうぶだと思いました。◇渡部真路先生は、生徒ひとりひとりの安否を探ってくれ、無事を確認するたび安堵が学校に広がりました。東松島の生徒の無事が分かった夜の歓喜は忘れられません。◇3月12日から仙台高校は避難所を開設しました。事務の佐藤保さんは、泊まり込みの職員にひとつずつ、毎日おにぎりを作りました。お米はそれだけで甘く美味かった。◇どうかそれぞれの3.11を語り継ぎ、自分事として感じたことを、皆さんの子どもたちにも語り継いでください。そこにあるのは、どんなときも守るべき命の尊さと、思いを寄せ支え合う素晴らしさです。

◆**認知症サポーター講座を受講しました。** 3/18、2学年はフェニックスプラン(キャリアプラン)の一環として、認知症について学ぶサポーター講座を受講しました。東北福祉会せんだんの里の佐々木園恵様を講師に、オンライン形式で講話をいただき、認知症の方やその家族の気持ちを理解したり、接する際の心の持ち方などを学びました。今後のボランティア活動などにも生かせるような深い学びとなりました。◆**第1学年、GPS、小論文ガイダンスを受講しました。** 3/18、フェニックスプランの一環として、1学年は「思考力」をトレーニングする GPS-Academic や「読解力」



や「文章表現力」を高めることをねらった小論文トレーニングにチャレンジしました。新しい学力をターゲットに、着々と力をつけています。

「今思うこと」防災委員会2学年委員長 安達圭市さん



私たちは、東日本大震災が起きた当時は災害に関する知識が無くどのようにしたらいいか分かりませんでした。しかし、現在は学校での避難訓練などの防災学習を通じて、災害が起きた際の対処について知識が身に付いてきたと思います。防災に関する知識が身に付くことで、災害が起こった時の被害を少なくすることが出来ます。防災について学ぶことは、災害時に生死を分ける大切なことなので、私たちはこれからもっと勉強していくことが必要だと思います。◎本校の生徒会組織に防災部門が誕生したのは平成28年。◆平成28年「防災係」各クラス2名ずつ ◆平成29年「防災委員会」生徒大会で設置承認

2月の地震は、警告に思えました。皆さんのご家庭では、震災の教訓が生きましたか？近年、震災遺構の公開が続いています。亙理町の中浜小学校は、様々な配慮をしてあったことで校舎が大勢の命を救いました。機会があれば、訪れてください。多くのことに気付かされます。そして、新型感染症の拡大は、次の自然災害が発生した時にどのような課題を私達に突きつけるのでしょうか。◆まだ10年、もう10年です。様々な自然災害を、しなやかに乗り越える知恵をみんなで見いだしていきましょう。

「早慶戦で中心選手に!」浅井勇暉さん(右)×「仙台六大学野球で優勝!」



鎌田健太郎さん(左)3年間振り返っていかがでしたか？鎌田:部活だけでなく勉強も行事も、友達関係も、すべてが楽しめた。浅井:私は部活動をやっていたから勉強にも打ち込めた。充実した3年間でした。後輩達へ一言お願いします。鎌田:私は目標を持つことで練習に対する態度や考え方が変わった。目標が決まれば何をすれば到達できるか考えられる。そこを大切に勉強も部活も頑張りたい。浅井:最終的には自分で決めて最後まで貫くべき。全国から集められた選手達との合同キャンプで学んだが、関西の人たちの貪欲さ、自分をアピールする力が無いとトップにはなれない。

〒981-8502 仙台市青葉区国見 6-52-1 担当:主幹教諭 板橋俊文
Tel 022-271-4471 URL <http://www.sendai-c.ed.jp/~sendaihs/>
『仙高の風』バックナンバーはホームページからもご覧いただけます。